

74. 中国福建土楼の空間構成と世界遺産登録による影響の調査

0910920087 姚曉明
指導教員 市川尚紀 准教授

福建土楼 客家土楼 田螺坑土楼群 世界遺産

1. 序論

1.1 背景と目的

福建土楼は、閩南土楼と一部の客家土楼で構成され、全部で 3000 余りある。通常、閩西南に独特な生土を利用して版築した、防衛ができる大型集合住宅である。福建土楼は、2008 年にユネスコの世界遺産の文化遺産に登録された。アジアで未だに人が住んでいる文化遺産になった村落の中でも大規模である。商業化による有形・無形を問わない文化遺産の消失・崩壊といった社会問題が起こる可能性があつて、住民の利益を確保と文化遺産の保護の両立ができるかという研究はこれまでなされていない。

本研究では、日本にない土楼の資料を探し、世界遺産登録された後の土楼の変化、商業化による民風の変化、その他の変化もあれば調査する。昔の建物なので科学風水ではなく、迷信として風水が使われているかも把握することを目的とする。

1.2 調査方法

土楼資料は中国の図書館、ネットで探す。そして土楼の空間構成の図面、基本資料を入手する。福建土楼の田螺坑土楼群(写真 1)にて生活の変化などを把握し写真を撮る。世界遺産による人々に与えた影響についてはヒヤリングによって把握する。



写真 1 田螺坑土楼群

表 1 調査概要

調査期間	2012 年 8 月 24 日～8 月 28 日 (5 日間)	
調査対象	中国福建省南靖県の土楼	
調査方法	文献調査 『福建土楼——中国伝統民居の瑰宝』、『中国民居の空間を探る 群居類住——“光・水・土”中国東南部の住空間』、『福建土楼』、『解説土楼——福建土楼の歴史と建築』	
	観察	登録後の変化の実態
	写真撮影	
	ヒヤリング	県内の人に登録後の土楼との関わりの変化について

2. 調査対象地

福建省(図 1)は、中国東南沿海に位置し、南靖県(図 2)は福建省漳州市に属して、北緯 24°、東経 117°に位置する。全面積は 1950.8 km²であり、2006 年まで総人口約 34 万人である。典型的亜熱帯季風気候に属し、夏の平均温度は 23.5～28℃。昼と

夜の温度差があるから、涼しそうに見えるが、昼は 35℃に越えることも多い。その地域に閩南方言、夏門話と客家方言の三つの言語がある。



図 2 福建省



図 2 南靖県

3. 福建土楼

3.1 福建土楼の概要

福建土楼は主に円楼、方楼、五鳳楼の三種類のタイプがある。またそれ以外にも様々な変異形のもの

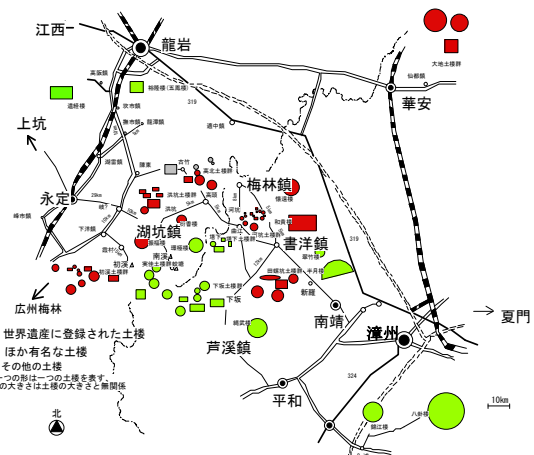


図 3 主な土楼分布図

表 2 福建土楼の特徴

特徴	土楼の名称
一番有名な土楼	承啓楼
一番早く“国保”になった土楼	二宜楼
一番大きい土楼	内通廊式円楼: 福盛楼
	單元式円楼: 雲霄斎
	方楼: 庄上城
直径が一番小さい円楼	前方後円式: 淮陽楼
	翠林楼
一番古い土楼	方楼: 一德楼
	円楼: 齊云楼
一番高い土楼	円楼: 裕昌楼
	方楼: 慶云楼
一番壮観な土楼	五鳳楼: 福盛楼
一番斬新な土楼	遺経楼
一番華麗な土楼	順嗣楼
	内通廊式円楼: 永康楼
	單元式円楼: 鍾武楼
一番先に旅館になった土楼	方楼: 奎聚楼
	振成楼

がある。2001 年時点で福建土楼は合計 3000 座余り存在し、その中の 46 座が世界遺産に登録された。

3.2 福建土楼の形成要因

円形土楼の形成要因については、今も学会内で言い争われている。はっきりした文献がなく、いろいろな根拠から答えを探し出し中である。

3.3 福建土楼の築造過程

一つの土楼を建てる過程は、一般に①用地を選定、②地業工事、③壁の基礎を築く・土台を敷く、④土壁を版築、⑤柱を立て・梁を架ける、⑥瓦を葺く、⑦内・外内装工事をするという七段階の作業工程となっている。

3.4 「福建土楼」と「客家土楼」の違い

客家は、著しい特徴を持っている漢民族の支脈の一つである。元は北方面の漢民族であって、戦乱から逃げることに

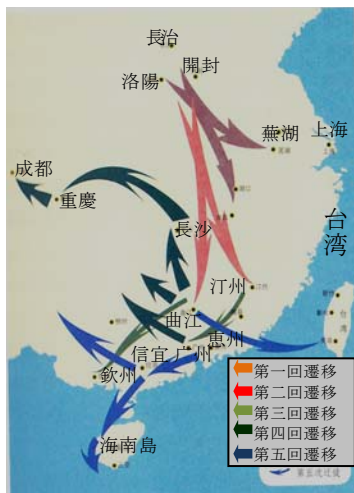


図 3 移転図

よって、今の西南まで移転した。図 3 のように五回の移転を経過したという。客家の民居は土楼だけではなく、種類は多い。土圍楼、圍竜屋以外に、一字屋、列杠楼、府第式、山寨式、四角楼、混合楼、園林式など様々な種類の民居がある。

この中の一部分だけ福建土楼として認めている。

一方、土楼といえば日本の文献ではよく「客家土楼」と紹介されている。しかし、福建省にある土楼は、すべてが「客家土楼」ではなく、ほかの形式も多数ある。閩南人が住む円楼、方楼の数は、客家人が住む円楼、方楼より多い。つまり「客家土楼」と呼ぶのは正確ではなく、「福建土楼」と呼ぶのが正しい。

4. 田螺坑土楼群

4.1 田螺坑土楼群の歴史

黄の祖先が、永定県からここに引っ越すのは今になって 24 代目である。2000 年の統計によると、全村土楼内に 105 戸、556 人が住んでいる。東西の長さが 145m、南北の横幅は 95m の山傾斜の台地に、地形に合わせて一つの方形土楼と三つの円形土楼、及び一つの楕円形土楼が建てられた。

4.2 ヒヤリング調査結果

田螺坑土楼群の五つの土楼内の住民は、ほとんど皆親戚で、「黄」という苗字の大きい家族の集まりであった。

山奥にあるため、若い男たちは仕事をするために大都市まで行くという。

世界遺産登録後に、一部の人が、土楼内で商売する為に戻ってきていた。地元ではない人も商売のためにやって来ていたが、土楼内の人たちから見ると、よそ者扱いされ、土楼の生活になかなか馴染むことができないという。

楼内に住んでいる地元の人、旅行者向け観光ガイドサービス、宿、飲食店、茶葉と、土楼に関するお土産などの商売をしていた。登録前より稼ぐことができるという。

政府が土楼の保護のためにいろいろな制限を作り出したので、土楼の構造的な改造はなされず。元々の特色ある生活も、ある程度残っていた。

表 2 ヒヤリング調査結果

質問内容	対象	土楼に住んでいる地元の人(16人)
いつから住んでいる		生まれた日から(8人) 嫁に来る人(8人)
観光客の多さ		夏少ない、冬多い(16人)
土楼が好きか?		好き(14人) 普通(2人)
土楼から離れたいか		離れても子孫に残る(16人)
住む人が増えたか		増えた(15人) 知らない(1人)
部屋の設備の変化		電気商品が増えた(15人) 知らない(1人)
生活の変化		経済がよくなった(15人) 知らない(1人)
引っ越した事		ある(7人) ない(9人)
困ること		学校が遠い(1人) トイレが外にある(1人) 特にない(14人)

質問内容	対象	土楼に住んでいる地元ではない人(2人)
なぜ土楼に住み始めた		商売しにきた(2人)
どこから来た		晋江(福建省)(2人)
土楼の生活はどう		慣れない(2人)
土楼が好き		まあまあ(2人)
不便と感じたことはある		トイレが外にある(2人)
家族と一緒に住んでいる		一人暮らし(2人)
どんな商売をしている		絵を売る(2人)
観光客はよく来る		夏少ない、冬多い(2人)
来て良かった		いいえ(2人)

5. まとめ

2008 年に福建土楼が世界文化遺産に登録した後に、有名な土楼がだんだん商業化し始めた。そして、商業化による住民の利益と福建土楼の保護の両立ができておらず、福建土楼の文化が消失し始めていることが分かった。一方、有名ではない土楼は、世界文化遺産に登録されても商業化はされなかった。

また、「福建土楼」は「客家土楼」だけではないこともわかった。

参考文献

- 1) 黄 漢民: 福建土楼——中国伝統民居的瑰宝(修訂本)(生活・読書・新知三聯書店 2009 年)
- 2) 茂木 計一郎・稲次 敏郎・片山 和俊: 中国民居の空間を探る 群居類住——「光・水・土」中国東南部の住空間(株)建築資料研究室 1991 年)
- 3) 黄 漢民: 福建土楼(漢聲出版社 1994 年)
- 4) 廖 冬、唐 齊: 解讀土楼——福建土楼的歷史と建築(當代中国出版社 2009 年)